

高燥の地への道標

—大正・昭和初期から、浦和・大宮が目指したまち—



昭和12年ころ、立原道造が別所沼に構想したヒアシンズハウス(スケッチ:青山恭之)



大正時代の別所沼 ※2

2025年
3月15日(土)
14:00~16:30

(開場 13:30)

埼玉会館 2Fラウンジ

聴講無料(要事前申込・定員100名)

主催:美術と街巡り・浦和実行委員会
(公財)埼玉県芸術文化振興財団

関連企画・まち歩き

3月15日(土) 12:00~13:00

フォーラムの前に、ヒアシンズハウス~鹿島台~埼玉会館のコースを歩きます。

(参加無料/要事前申込・先着20名)

お申込み方法などの詳細は裏面をご覧ください。

関東大震災後、多くの人々を受け入れて文化の発信地となった、浦和の鹿島台や大宮公園・盆栽村に、彼らは何を求めたのか。文教都市の礎を考えます。

● 講演

安野 彰 (日本工業大学教授)

「耕地整理によって田園郊外へと変貌した戦前の浦和と大宮」

津村 泰範 (長岡造形大学准教授)

「詩人・立原道造を惹きつけた浦和の魅力」

● コメンテーター

青山恭之 (建築家、アトリエ・リング)



鹿島台の住宅地、アトリエ付き住宅や水道タンクが見える。(イメージ:青山恭之)